

平成25年
4月号

桂台地域ケアプラザ

地域交流プログラム

発行日／平成25年3月1日
編集・発行／横浜市桂台地域ケアプラザ
発行責任者／石塚 淳

お問い合わせ先

地域交流部門 897-1111

HPアドレス

<http://www.katuradai.com>

桂台 支えあい連絡会

検索

先だって、兵庫県で第1回全国集合住宅団地サミットが開かれました。お互いさまネット公田町団地も発表者として呼ばれ、地域で始まった買い物支援のためのあおぞら市がNPOに発展し、拠点を獲得するまでの経過について報告しました。今、孤立死予防の取り組みや孤立予防のための見守り活動が地域活動の中で脚光を浴びていますが、その他の発表についても、同じような課題から様々な工夫に取り組んでいるものでした。地域を支えるケアプラザとしても大変参考になるものでした。サミットに出て気付いたのは、最近、注目されている活発な地域活動の単位が小さくなっているという事です。連合町内会単位で行っている地域福祉保健計画の地区別計画も大切ですが、どの活動ももっと小さな単一自治会エリアの活動が発信源になっています。これは、大きなヒントかも知れません。これから、丹念に小地域の活動を支援していくことが、ケアプラザの役割だと感じています。

4月の おしらせ



桂台スペシャルデイのお知らせ

桂台地域ケアプラザデイサービスでは、利用者さんへの日頃の感謝を込めて、月に1回「桂台スペシャルデイ」を企画しています。毎月毎月素敵なプログラム企画していますので、地域の皆様も是非、足をお運び下さい。

日時：5月19日(日) 14:00~15:00

内容：～SB合唱団♪～

前回も好評だった若々しい学生達(合唱部)の元気なパフォーマンス、そして素敵な歌声をお楽しみください。

場所：桂台地域ケアプラザ・デイルーム

◆ベビーマッサージを はじめましょう◆



優しいママの手が、お子さんの豊かな心を育てます。
パパの参加も大歓迎！親子でゆったりと癒しの時間をすごしませんか？

日時：4月26日(金) 10:30~12:00

募集：ハイハイ前のお子さんと保護者10組(定員次第締切)

参加費：1組300円(オイル代)

申込み：桂台地域ケアプラザ TEL: 897-1111

医療相談

ケアプラザ協力医の龍先生による無料の健康相談を下記日程で行っています。
身近な病気の相談など丁寧に対応して下さい。(予約優先)

日時：4月12日(金)、4月26日(金)
13:30~15:00

協力医：龍 覚(上郷医院 院長)

場所：桂台地域ケアプラザ 相談室1

◆いきいき趣味講座・第1弾◆

～造園家が伝授する～
「自分だけの寄せ植え ミニ講習会」

日時：5月13日(月)

①オリジナル鉢に寄せ植え(1苗) 13:00~(30分程度)

②寄せ植えで小さなガーデン(3苗) 13:30~14:30

参加費：①800円 ②1200円

募集：①②とも各10名(定員次第締切)

持ち物：エプロン、ビニル手袋(薄手)、持ち帰り用袋

場所：晴天時 ケアプラザ正面玄関前 雨天時 2F多目的ホール



～地域で支援するということ～

毎年年度末に本郷中央地区協働福祉フォーラム兼本郷中央地区地域支えあい連絡会を行っていますが、今年も3月2日に開催しました。今回のテーマは～地域で支援するということ～ご出席の皆さまのアンケートからたくさんの良い言葉がありましたので、まずは谷川俊太郎風（あくまでも風！）に報告します。



地域で支援するということ

それは、ちょっとしたおせっかいをすること

街に無関心だった人が、関心を持ち始めること

支援する人が支援される人にもなるということ

「お互いさまだね」と言いあう事

若い方もシニアの知恵も必要だということ

誰にでもできる事があるということ

関心を寄せあい、心を結ぶ事

さて、実際の報告です。

第1部前半—支えあい連絡会分科会活動報告

●地域福祉関係者分科会

藤井さんからは、活動の3本柱の紹介がありました。自治会訪問—各自治会を訪問して自治会の抱える課題や特色のある地域活動についておたずねします。これまでに訪問し、お聞きした課題を本郷中央地区の抱える7つの課題としてまとめました。協働福祉講座—自治会訪問等で抽出した課題の解決を促進するため、毎回テーマを設定した講座を開催しています。今年度は虐待や認知症の介護をテーマにした創作劇を行いました。協働福祉フォーラム—年度のまとめも兼ねて、我が街の福祉活動を増進するためのフォーラムを開催しています。特に本郷中央地区における要援護者避難支援の動きを継続して追いかけています。

●子育て支援分科会

主任児童員の白水さんからは「こんにちは、赤ちゃん訪問事業」についてのご紹介がありました。生後4カ月までの赤ちゃんのいる全てのご家庭を地域の訪問員がお伺いし、子育てに役立つ情報などをお届けする事業です。横浜市では、平成21年からこの事業が始まっています。また、虐待をテーマにした創作劇の作者である木暮さんからは「劇の結末のように、実際にはうまくいくはずがないと思わないで、少しでも理想に近づく努力をしてほしい」とこの劇に込められた思いについて話がありました。

「創作劇で知る家庭内虐待・DV」と認知症をテーマにした「てんやわんやの本郷中央1丁目1番地」の2本の創作劇はDVDになっています。無料で貸し出しを行っていますのでご興味のある方は気軽に桂台ケアプラザにお問い合わせください。897-1111もしくは直接窓口にも。



●ボランティア分科会

グループ桂台の中村さんからは、3月11日の地震の際には、事前に災害時の活動について話し合いが行われていたため、ボランティアさんが、一人ひとりの利用者の安否確認に回れたという報告がありました。その日のうちに利用者の安否確認をしっかりと行えた介護事業者は少なかったと聞きます。配食サービスや家事支援グループが見守り活動と直結している事をまさしく感じさせる事例でした。

●広報分科会

分科会メンバーの岩井さんからパソコンサロンについてのご紹介がありました。必要な情報を必要な人に届ける事が地域福祉保健計画でもうたわれています。行動宣言として「広くわかりやすく伝える工夫や、受けての立場に立った情報発信」が提案されましたが、一方必要な情報を自分で受け取る努力も必要です。このサロンでは、一度パソコンの操作を諦めた人に対しても粘り強くマンツーマンで教えてくれるのが特徴です。「インターネットやメールの使い方中心の本当に自分がしたい事をできるようにする事を目的とした実用的な講座です。ぜひ、参加してみてください」と力強いお誘いの言葉がありました。

第1部後半—地域で支援している具体的な取り組みについて

①要援護者避難支援の取り組みについて

桂台団地自治会の玉川会長からは、具体的な事例に基づいての報告がなされました。桂台団地の世帯数は300世帯弱。活動当初、支援が必要な人を回覧で募集したところ手挙げをした方は4人。そこで検討委員会をつくり、自治会で福祉活動を行っているみのり会と一緒に事業の説明をしてもらったら37名に増えたそうです。また、支援者については回覧で募集したところ24名の応募があったのですが、日中、地域にいる方が少ないのが課題になっています。いざという時支援者が行うのは安否確認までとし、集会所を拠点として、集まった支援者が話し合いをして活動を行う事を決めているという事です。続いて本郷中央地区で一番世帯数が多い桂公田町会の取り組みについては、自治会高齢者福祉担当のハツ橋さんから報告がありました。平成21年から始まった活動は、毎年確実に歩みを進め、1年目は、要援護者避難支援の趣旨について周知活動。2年目は要援護者についての人数把握のための調査実施（190名）。3年目は支援者についての調査（200名の応募）。4年目は自主防災対策委員会を立ち上げ検討を重ねているとの事です。

②認知症の方とその家族に対する支援について

認知症サポーターネットワークが立ち上がったきっかけは、平成22年、グループ桂台主催の「認知症サポーター養成講座」です。代表の谷さんは、認知症の事を学ぶ中で、本人とその家族が、とても苦しみ悲しんでいる事が初めて実感できたそうです。そして、認知症に関心を持ち、苦しんでいる方に声をかけられるサポーターを地域に増やす必要性を感じ、会を発足させました。現在はサポーター向けの勉強会だけではなく、中学生向けの研修会、さらにケアプラザと協力して認知症の方に対するボランティア活動も行っています。今後も「できる範囲でできることからはじめよう」をモットーに、継続的に勉強会などを開催していきたいと報告されました。



第2部—意見交換会

フローラ桂台の細田会長から「見守りは支援者と要援護者の2者関係では難しい。実際の災害時には支援者が要援護者になることも十分考えられる。全員が支援者であり、要援護者でもある。例えば近所に2人知り合いがいたら、その2人を顔見知りにして、自分を含めたトライアングルの関係をつくっていけば見守りの目が強くなるのではないかと提言がありました。また、湘南ハイツの糸川さんからは、「自分のできる範囲で積極的に小さな親切やおせっかいをしていきたい」と地域に関心を持つことの大切さについて意見がありました。最後に栄区福祉保健センター・小西課長がご自分の体験談として、「仕事をしながらの子育てで大変ね」と見知らぬ地域の方から声をかけられ、いつも気にかけていたんだと感じ、心が軽くなったという事を話されました。

今回のフォーラムでは、地域はいつもお互いに支えあう関係にあり、支援する側が支援される側にまわったりということが日常的に起こっているということ、顔の見える関係が何より大事だということ、そして、何気ない声かけが人を救う事が確実にあるのだということを改めて感じ、温かい気持ちになりました。

平成24年度は大変お世話になりました。毎年恒例になっておりますアンケートの結果についてお知らせいたします。また、皆さまお忙しい中、ご回答いただきまして大変感謝しております。この場をお借りして御礼申し上げます。さて、アンケートの結果ですが、好意的なご意見を多数いただきまして職員一同「さらにならばろう！」という気持ちがございます。しかしながら、まだまだ不足の点もありますので、皆様にご意見をいただきながら、ケアプラザ運営に反映させ、取り組んでいきたいと思っております。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、それぞれ戴いたアンケートの人数は以下のとおりでした。

- 地域交流 67名（貸し館登録団体の代表の方）
- 地域包括支援センター 20名（本郷中央地区の民生委員・児童委員の方）
- 居宅介護及び予防支援事業 114名（ご利用者の方）
- 通所介護（デイサービス） 56名（ご利用者の方）

ご指摘の点について主なものと今後の取り組みについて

地域交流部門

ご意見 緊急時や災害時に向けての説明が貸し館登録団体のメンバーに浸透していない。

今後の取り組み

ご意見ありがとうございます。24年度は、貸し館意見交流会の中で①避難経路の確認や消火器等、消防設備の場所の確認を行い、消防署の方を講師にAED（自動対外式除細動器）についての講習を行いました。代表の方は理解できていても、その他のメンバーの方に浸透しないという事が課題としてあります。次年度は、皆さまがケアプラザで活動する時間の一部をご利用させていただき、簡単にご案内をする時間を設けさせていただき、事を検討しています。

地域包括支援センター部門

ご意見 地域包括支援センターについて地域にまだまだ浸透していない。

今後の取り組み

昨年行われた栄区の調査においても、地域包括支援センターの事が地域に浸透していないという事が課題にあがりました。地道に活動はしているのですが、この地域でもやはり浸透度がまだまだという事が浮き彫りになっています。24年度はパンフレットをリニューアルして各方面に配布しましたが、やはり結果が中々出ないものです。国においても保健福祉分野の中では地域の最前線の拠点として位置づけられている地域包括支援センターだけに皆さんに覚えていただければと思っています。複数年度に渡り、この課題をクリアできるように努力していきます。

その他

ご意見 講座・イベント等についてのサークルのメンバーについて教えてあげたいが、広報紙が回覧で回ってくる頃には期日が近くなりすぎてしまう。

今後の取り組み

情報の発信元である地域交流プログラムは、各自治会から班回覧でまわしていただいておりますが、それでは情報が遅い方もいらっしゃるようです。今後、貸し館申し込みの受付に来られた方に一部ずつ差し上げますので、代表の方はグループの皆さまにお伝えいただけると幸いです。

以上のような内容が代表的なご意見でありましたが、今後とも皆様のご意見を取り入れながら、より良い運営を目指して行きたいと思っております。ご意見やご提案などがある方は、お気軽に受付までお声かけいただければと思います。また、館内にはご意見箱も設置しておりますので、そちらもご活用ください。